

営農情報 第5号

令和6年7月8日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 コシヒカリの生育状況

平年に比べ、草丈、m²あたり茎数、葉色、葉齢の展開は並となっています。
現在の生育の進みから、出穂期は7月31日頃(5月12日田植えの場合)と予想されます。

表 コシヒカリの生育状況(7月1日調査)

	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂形成期	出穂期
		(本/株)	(本/m ²)				
令和6年	61.0	22.5	474	11.2	4.1	(7月10日) ^{※2}	(7月31日) ^{※2}
令和5年	60.0	23.0	462	10.9	4.1	7月10日	7月30日
平年 ^{※1}	59.8	23.6	499	11.2	4.1	7月10日	7月31日

※1 アルプス米標準田 H26~R5の平均値 ※2 カッコ内は推定値

2 コシヒカリの穂肥の目安(5月12日田植えの場合) 参照ページ:p31

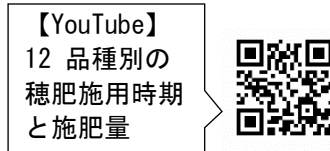
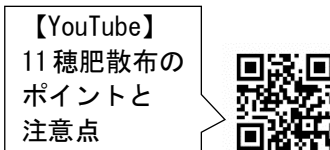
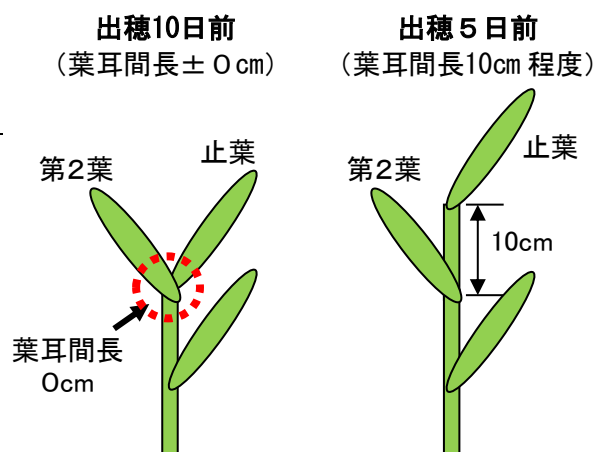
高温少雨の日が続くと予想される場合は、積極的に追加穂肥を施用しましょう。

(1) 基肥一発肥料の場合

基肥一発肥料を施肥した圃場でも、葉色が淡い場合は稲体の活力を維持するため、追加穂肥を施用しましょう。

●追加穂肥の目安

- 指標 出穂7日前(7月24日頃)の葉色が淡い(葉色4.2未満)
- 施用時期 出穂3日前(7月28日頃)まで
- 肥料 追肥3号
- 施用量 5~7kg/10a(砂壤土7~10kg/10a)

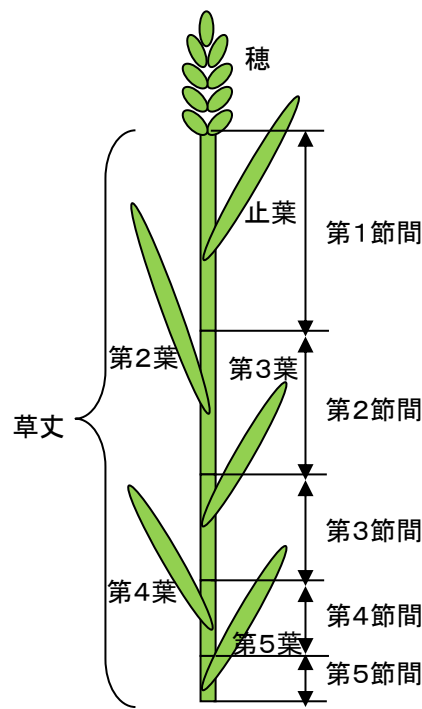


(2) 分施肥体系の場合

●生育量別穂肥の目安(肥料:追肥3号)

田植日や圃場条件によって施用時期が異なります。必ず葉色、幼穂長を確認してから施用しましょう。

生育量	1回目穂肥(幼穂長1.5cm)				2回目穂肥		
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)
理想	82cm以下	3.6	葉がピンと立つ	7/16頃	10kg	1回目穂肥の7日後	10~13kg(砂壤土13kg)
やや過剰	82~87cm	3.8程度	葉がやや垂れ気味	7/18頃	7kg以内		10kg
過剰	87cm以上	4.0以上	葉がメラメラ	施用しない		出穂7日前(7/24頃)	7~10kg



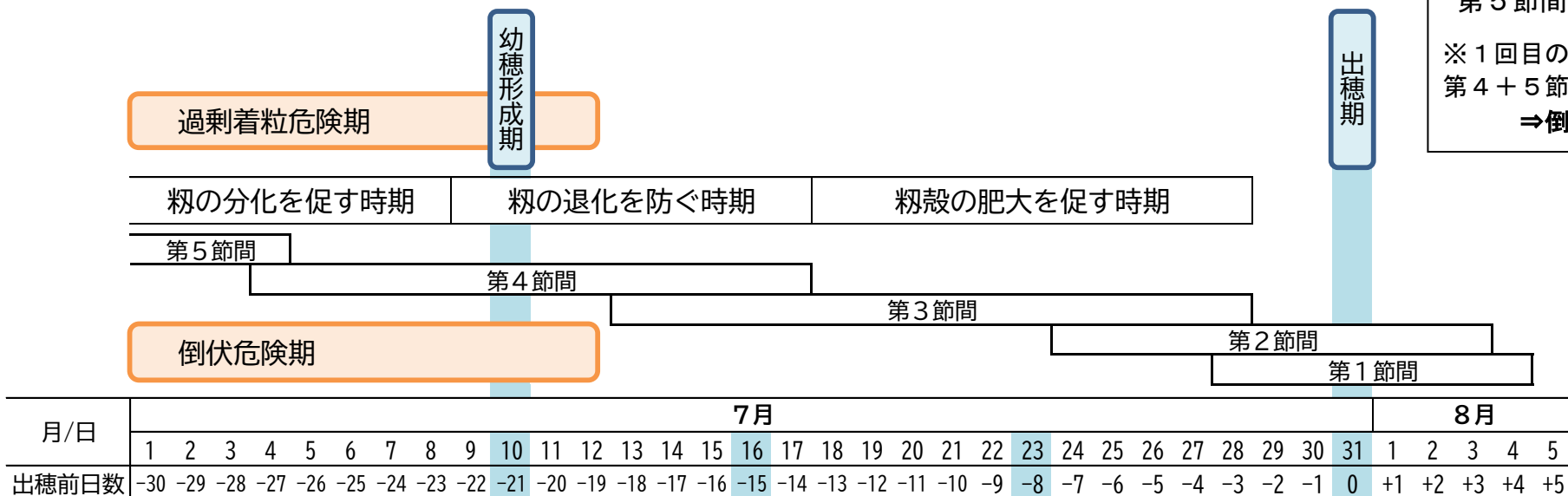
【イネの葉と節間】

●目標とする節間の長さ

- 第4節間: 9.0cm以内
- 第5節間: 3.5cm以内

※1回目の穂肥施用時の第4+5節間が15cm以上⇒倒伏の危険大!

●コシヒカリの穂肥施用時期の生育状況(5月12日田植え)



コシヒカリの理想の姿

	<幼穂形成期の姿>	<分施肥系1回目穂肥時期>	<分施肥系2回目穂肥時期>	<出穂期の姿>
草丈 cm	72cm	82cm		104cm
茎数	本/m ² 470本	430本		400本
	本/株(60株植) 26本	24本		22本
	本/株(70株植) 22本	20本		19本
葉色	3.8	3.6		4.3
幼穂長	2mm	1.5cm	15cm	18.5cm
節間				
	第4 2cm	9cm	9cm	9cm
	第5 3.5cm	3.5cm	3.5cm	3.5cm

穂揃期に4.2~4.5(砂壤土4.5)になるように

3 今後の水管理 参照ページ:p34

【YouTube】
10 中干し後の
水管理



【YouTube】
15 水稲の登熟
期間の水管理



今年の夏も暑くなると予想されています。生育ステージに応じた適切な水管理を徹底しましょう。

●生育ステージに応じた水管理

生育ステージ	幼穂形成期	出穂期	出穂20日後	収穫5～7日前
水管理	飽水管理	湛水管理	間断かん水	
水量				

出穂までは『飽水管理』
足跡の水がなくなる前に入水し、常に圃場が湿っている状態を保ちましょう。

足跡の水を切らないように

出穂後20日間は『湛水管理』
湛水管理により収穫期近くまで葉色が濃く、稲の活力が維持され登熟が向上します。

田面が出ないようにね

収穫前まで『間断かん水』
出穂20日後から収穫の5～7日前までは間断かん水で稲体の活力を維持しましょう。

こまめな水分補給で最後までがんばるよ!

『飽水管理』 入水後→自然落水→入水（出穂始めまで繰り返す）



「田面の高い部分が隠れる程度まで入水」 「この状態になったら入水」 「この状態は乾きすぎ」

※幼穂形成期から出穂期にかけては、稲の茎葉からの蒸散が多くなる時期で、水分を多く必要とします。
※圃場が乾き過ぎると極端に葉色が下がり、稲体の活力が低下するので、**湿潤状態を保ちましょう。**

- ・下流域まで十分に水が行き渡るようかけ流しを止め、地域での計画的な用水の利用に努めましょう。
- ・フェーンが予想されたら、水不足にならないようあらかじめ入水しましょう。

4 コシヒカリの病害虫防除 参照ページ:p32～33

【YouTube】
14 本田基本防除



- ・今年もカメムシ類が管内全域で多く発生しています。
- ・**防除は遅れず、適期に確実に実施**しましょう。
- ・圃場への侵入を防ぐため、薬剤は畦畔にもかかるように散布しましょう。
- ・**防除間隔は7日を基本とし、10日以上空けない**てください。

調査地点数	40ヶ所
確認地点率	82.5% (R5 : 76.5%)
捕獲頭数	平均 10.7頭 (R5 : 8.4頭)



カメムシによる斑点米の被害



防除時期	紋枯病の発生が多い圃場	穂揃期	傾穂期	カメムシが多い圃場
	7月21日（出穂10日前頃）	8月3～5日頃	8月10～12日頃	傾穂期後
粉剤体系	バリダシン粉剤DL 3～4kg/10a (収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)	トレボン粉剤DL 3～4kg/10a (収穫7日前まで)
液剤体系 《通常散布》	バリダシン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで)	ラブサイドK2フロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤10 1,000倍 (収穫7日前まで)	トレボン乳剤 1,000倍 (収穫14日前まで)
	散布量：150L/10a	散布量：150L/10a	散布量：150L/10a	散布量：150L/10a
液剤体系 《空中散布》	バリダシンエアー 8倍 (収穫14日前まで)	ラブサイドK2フロアブル 8倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤10 8倍 (収穫7日前まで)	トレボンエアー 8倍 (収穫14日前まで)
	散布量：0.8L/10a	散布量：0.8L/10a	散布量：0.8L/10a	散布量：0.8L/10a
対象病害虫	紋枯病	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類(※粉剤のみ)	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	カメムシ類

農作業中の熱中症・事故に注意！ 高温時の作業を避け、こまめな休憩・水分補給を！